

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	Kasetsart-信州 理学系学生研究交流会	
学部・研究科名	理学部および総合理工学系研究科	
プログラム実施期間	2017年9月23日～9月27日	
研修先(国・都市・施設名)	タイ王国(バンコク・カセサート大学)	
参加者数 : 5名		知の森からの支援者 : 5名
プログラム概要	理学部数学科の3年生2人と大学院総合理工学系研究科修士課程1年生3人により、タイ王国カセサート大学理学部を数学科を中心訪問し、交流を行なった。具体的に行なった内容は、以下の通りである。 9月24日は、カセサート大学の学生3人の案内によりバンコク市内の博物館や寺院等を見学し、タイの文化や歴史について学んだ。9月25日は、カセサート大学数学科において、3つの特別講義を聴講した後、信州大学の学生が、各自の研究内容についての発表を行なった。カセサート大学の学生が簡単に自己紹介した後、お互いの大学のカリキュラム内容等について討論を行なった。9月26日は、午前中にカセサート大学理学部長を訪問した後、大学院のカリキュラム等について討論し、午後図書館を見学してから帰国の途についた。	

実施状況・成果

タイ王国カセサート大学は、バンコク郊外にある国立の総合大学である。信州大学で2012年に博士の学位を取得したThansri Thorrarin 氏が講師として教鞭を取っていることもあり、理学部どうしの交流を推進してきた。信州大学理学部の学生の訪問は、2015年3月に続き2回目である。前回は、信州大学理学部からは4学科9名の学生が訪問し、カセサート大学理学部の対応する学科と交流を行なったが、より深い交流を行なうために、今回は数学科の学生どうしの交流として企画した。2名の3年生と3名の修士課程1年生が訪問した。

今回参加した学生は、海外旅行の経験はあるもののタイの訪問は全員初めてだったが、初日にカセサートの学生によりバンコク市内を案内してもらったことにより、タイの文化や歴史を理解してから2日目以降の交流に臨むことができた。博物館や寺院では王国としてのタイの文化を学んだが、それ以外にも電車の中でタイの人の譲り合いの精神に触れたことなどで、タイの文化を体感でき、より親しみを持ってカセサート大学での交流を行なうことができた。

カセサート大学では、カセサート大学の教員2名による講演と信州大学の教員による講演を、カセサートの学生達と共に聞いた後、信州大学の学生は、自身の研究内容について1人づつ発表する機会をもらった。学部生は、理学部でのアドバンスプログラムに参加している学生であり、1年次から自主ゼミとして他の学生より進んだ内容を勉強していった。その内容と共に、信州大学理学部についての説明も行なった。大学院生は、現在の研究内容を1人10分で説明したが、予想よりカセサートの学生の反応がよく、活発な質疑応答があったことは、良い意味で意外だった。

参加した5人の学生の内、ある程度英語で会話できるのは1人しかいなく、また英語でのプレゼンの経験も皆無だった。そこで、知の森基金の採択が決まる前から、3ヶ月余り英語でのプレゼンテーションの指導を行なった。しかしながら、短期間で英語力を上げることは難しく、質疑応答は困難だろうと悲観していた。それが杞憂に終わったのは嬉しい誤算だったが、それも親しみ易いカセサートの学生達のおかげだったと思う。その後、お互いのカリキュラムの違いなどについて討論した。カセサートが応用に重点を置いたカリキュラムであることや同じ授業でも勉強する学年が異なるなど、様々な違いを知ることができたのは、双方の学生にとって良い刺激になったと思う。更に、難しい授業が「実解析」であることなどで意見が一致し、その後の懇親会も含め大いに盛り上った。

理学部全体ではなく数学科に限定したことで、2015年のときより、一層深くお互いの大学のことを知ることができた点は成功だったと思う。

学生の声①-総合理工学研究科 学生

今回のタイ・カセサート大学との交流会を通じて、自分の英語力不足を痛感致しました。カセサート大学の学生とコミュニケーションをとる機会は毎日のようにありましたが、自分の気持ちを英語でうまく表現できないことや相手の英語が聞き取れないことに憤りを感じました。しかし表情やジェスチャーで英語力不足を補うことで、日常会話や専門分野でのコミュニケーションをとることができました。また異文化や多言語に触れることで、日本・長野県の良さを再認識いたしました。今後機会がありましたら、長野の良さを発信していきたいです。

学生の声②-総合理工学研究科 学生

Kasetsart大学との交流を通してたくさんの貴重な経験を得ることができました。特に、Kasetsart大学の学生と交流したことが忘れられません。私も彼らも英語が母国語ではありませんでしたがお互いにコミュニケーションをとるために英語を使い会話をしました。その中で言いたいことが伝わらないというもどかしさがありました。しかしお互いに歩み寄り互いを理解しようとする姿勢で触れあったことで深い交流ができたように思います。帰国後も定期的にやり取りをしていて仲良くしています。

学部長室にて学部長との面談



発表の後の懇親会

